

日本頭痛学会ニュースレター 第55号（2026年新春号）



- 1) 日本頭痛学会代表理事 竹島多賀夫先生より年頭のご挨拶
- 2) 2026年「頭痛の日」の公知活動について
- 3) 頭痛研究トピックス～広報委員より最新の論文をご紹介



- 1) 日本頭痛学会代表理事 竹島多賀夫先生より年頭のご挨拶



竹島多賀夫 2026年1月吉日

あけましておめでとうございます。本年も日本頭痛学会(JHS)をどうぞよろしくお願ひ致します。JHSの発展のための三本柱として, branding, globalization, diversity を立て, 推進しています。JHSの会員数は3647名, 専門医は1151名となりました。

私が代表理事を拝命して3年が経過しました。この3年間は頭痛医療において多くの変化があり, また, 頭痛学会が大きく発展した時期でもありました。CGRP関連抗体薬3製剤が承認され, またラスマジタンも承認されました。昨年末には, わが国初の経口 CGRP拮抗薬としてリメゲパントが使用できるようになりました。

2025年は多くのイベントや企画が実施されています。2月22日, 頭痛の日には各地でグリーンにライトアップするイベントが実施され, 頭痛性疾患の社会への啓発, 情報発信をいただきました。2026年はさらなる盛り上がりと成果を期待しています。

JHSは韓国頭痛学会(KHS)との連携を強化しており, 2024年に引き続き, 2025年11月16日に, ソウルの Samjung Hotel で韓国頭痛学会(Chu教授)と平行して日韓合同シンポジウムを開催しました。日本からは, 竹島と, 滝沢翼先生, 鈴木圭輔先生が参加し, 吉田昌平先生, 小林聰朗先生がシンポジウムで発表されました。韓国のTop expertと有意義な議論ができました。韓国頭痛学会のセッションにも一部参加しました。発表は韓国語でしたが, スライドは大部分がハングルではなく, 英語で記載されていましたので一部理解できました。

2025年9月にはサンパウロで Peres会長の元, 国際頭痛学会が開催されました。日本からは地球の裏側で長時間のフライトを乗り継ぐ必要がありました。日本人も少なからず参加していただきよかったです。

す。海外では、JHS の会員が 3000 人以上いることに驚かれるのですが、一方で JHS 会員の国際頭痛学会加入者が 50 名たらずであることをさみしく感じています。国際対応委員会(園野大介委員長)のもと、国際化推進小委員会の石井亮太郎委員長を中心になって国際頭痛学会参加勧奨プロジェクトを推進していますので未加入の方はよろしくお願ひします。日韓の共同企画は日韓プロジェクト小委員会(滝沢翼委員長)が推進しています。

GPACH(Global Patient Advocacy Coalition for Headache)は現在、国際頭痛学会から組織としては切り離されてアイルランドの Audrey Craven 教授が代表として活動しています。日本からは坂井文彦先生、園野大介先生が参画しています。本年 11 月 7 日-8 日、大阪で GPACH Summit/HMSJ-Asia 2026 を開催します。現在プログラムを準備中ですが GPACH Summit では各国の Advocacy の状況の共有と患者、医療従事者、関連学会、行政からの提言も盛り込む予定です。HMSJ-Asia は秋の HMSJ を国際化して開催します。主として英語での講義やディスカッションを予定していますが、人工知能(AI)を活用した同時翻訳ツール、多言語対応字幕を導入して気楽に参加いただけるプログラムにする予定です。アジアからもオンラインで参加頂く予定です。多数の会員の参加をお待ちしています。

最新の頭痛の診療ガイドラインは 2021 年に刊行されましたが、その後、新たな頭痛治療薬の登場、国際頭痛学会による片頭痛治療目標の見直しなどもあり、改定版作成のための準備を新ガイドライン委員会(柴田護委員長)で始めています。

頭痛専門医や、頭痛診療に関する疑問等を気楽にお尋ねいただく窓口として、一昨年、「頭痛学会リエゾン」を設置しました。施設見学、外来見学などさまざまなお問い合わせに対し、適切な施設、会員に繋いでいただけおり、成果をあげていますので、気楽にご活用ください。

ここ数年、総会プログラムに若手頭痛診療医を中心としたシンポジウムが、加納裕也先生を中心に取り組まれており好評です。若手の会員の活動をさらに活性化するための「若手のアゴラ」をあり方委員会の中に作りました。若手の会員(頭痛診療医としての若手も含む)はぜひご参画いただき、様々なご意見や提案をいただきたいです。

頭痛研究推進小委員会(永田栄一郎委員長)では、会員の頭痛関連研究費獲得、頭痛研究推進を支援していく体制をとっています。2025 年にも頭痛関連の研究費応募の情報を会員に周知することで研究費獲得ができました。また、頭痛学会として基礎研究に対する助成を実施しています。引き続き会員による頭痛基礎研究を支援していきます。

多くの会員が頭痛学会の様々な活動に参加いただき、頭痛医療の発展のために貢献いただければありがた

いです。新たなアイデアをお持ちの会員は、是非、アプローチしやすい代議員や理事にご相談ください。2026年が頭痛学会のさらなる発展、飛躍の年となるよう、理事会メンバー、各委員会の委員とともに力を結集して、いろいろな企画にチャレンジして参りますので、どうぞよろしくお願ひします。

2) 2026年「頭痛の日」の公知活動について

日本頭痛学会と日本頭痛協会では、2月22日を「頭痛の日」として制定し、頭痛性疾患の啓発のため毎年さまざまな活動を行っています。本学会では、片頭痛患者に優しい色であるグリーンをイメージカラーとして、グリーンリボンの装着、建造物のグリーンライトアップなど、各地で「頭痛の日」を盛り上げるための取り組みを行ってきました。その活動の一部や今年度のポスターについて、近日中にホームページでご紹介する予定ですのでご覧ください。また、「頭痛の日」の公知活動にご賛同いただける先生方はぜひご協力ください。

3) 頭痛研究トピックス～広報委員より最新の論文をご紹介

- カンデサルタンによる反復性片頭痛予防効果に関するプラセボ対照ランダム化試験

Øie LR, et al. Candesartan versus placebo for migraine prevention in patients with episodic migraine: a randomised, triple-blind, placebo-controlled, phase 2 trial. Lancet Neurol 2025; 24: 817–827.

掲載日:2025/10/15

- 行政機関職員における慢性頭痛の実態と脳の健康への影響

Shibata M et al. Chronic headache disorders as a threat to brain health among employees of a city office in the Tokyo metropolitan area. J Headache Pain 2025; 26:240.

掲載日:2025/11/13

- 感覚神経由来のCGRP α による白色脂肪細胞分化と組織可塑性の制御

Dumont KD, et al. Sensory-neuron-derived CGRP α controls white adipocyte differentiation and tissue plasticity. Cell Rep 2025; 44:116613.

掲載日:2025/12/5

【日本頭痛学会 広報委員会】

ニュースレターに関するご意見、問い合わせは<jhs-office@shunkosha.com>までお願いいたします。